

校異源氏物語・夕きり

まめひとのなをとりてさかしかり給大将この一条の宮の御ありさまをなをあらまほしと心にとゝめておほかたの人めにはむかしをわすれぬようにみせつゝいとねんころにとふらひきこえ給したの心にはかくてはやむましくなむ月日にそへておもひまさり給ける宮す所もあはれにありかたき御心はへにもあるかなといまはいよく物さひしき御つれ／＼をたえすをとつれ給になくさめ給事ともおほかりはしめよりけさうひてもきこえ給はさりしにひきかへしけさふはみなまめかむもまはゆしたゝふかき心さをみえたてまつりてうちとけ給おりもあらしやはとおもひつゝさるへきことにつけても宮の御けはひありさまをみ給みつからなときこえ給ことはさらになしいかならむついてにおもふ事をもまほにきこえしらせて人の御けはひをみむとおほしわたるに宮す所のゝけにいたうわつらひ給てをのといふわりにやま里もたまへるにわたりたまへりはやうより御いのりのしにものゝけなとはらひすてけるりし山こもりして里にいてしとちかひたるをふもとちかくてさうしおろし給ゆへなりけり御車よりはしめて御前など大将とのよりそたてまつれ給へるを中／＼むかしのちかきゆかりのきみたちはことわさしけきをのかしゝのよのいとなみにまきれつゝえしもおもひいてきこえ給はす弁の君はたおもふ心なきにしもあらてけしきはみけるにことのほかなる御もてなしなりけるにはしゐてえまてとふらひ給はすなりにたりこの君はいとかしこうさりけなくてきこえなれ給にためりすほうなとせさせ給ときゝてそうのふせ上えなとやうのこまかなる物をさへたてまつれ給なやみ給人はえきこえ給はすなへてのせしかきはものしとおほしぬへくこと／＼しき御さまなりと人々きこゆれば宮そ御返きこえ給いとおかしけにてたゝひとくたりなとおほとかなるかきさまことはもなつかしき所かきそへ給へるをいよくみまほしうめとまりてしけうきこえかよひ給猶ついにあるやうあるへきやう御ながらひなめりと北方けしきとり給へればわつらはしくてまうてまほしうおほせととみにえいてたちたまはす八月中の十日はかりなれば野へのけしきもおかしきころなるに山さとのありさまのいとゆかしければなにかしりしのめつらしうおりたなるにせちにかたらふへき事あり宮す所のわつらひ給なるもとふらひかて

らまうてんとおほかたにそきこえていて給御前ことくしからてしたしきかきり五六人はかり衣にてさふらふことにふかき道ならねとまつかさきのを山の色などもさるいはほならねと秋の気色つきて宮こになくをつくしたるいへるにはなをあはれもけうもまさりてそみゆるやはかなきこしはかきもゆへあるさまにしなしてかりそめなれとあてはかにすまひなし給へりしん殿とおほしきひんかしのはなちいてにすほうのたんぬりて北のひさしにおはすれはにしおもてに宮はおはします御ものゝけむつかしとてとゝめたてまつり給けれといかてかはなれたてまつらんとしたひわたり給へるを人にうつりちるをおちてすこしのへたてはかりにあなたにはわたしたてまつり給はすまらうとのゐたまふへき所のなければ宮の御方のみすのまへにいれたてまつりて上らうたつ人々御せうそきこえつたふいとかたしけなくかうまての給はせわたらせ給へるをなむもしかひなくなりてはへりなはこのかしこまりをたにきこえさせてやとおもひ給ふるをなむいましはしかけとゝめまほしき心つきはへりぬるときこえいたし給へりわたらせ給し御をくりにもとおもふ給しを六条院にうけたまはりさしたること侍しほとにてなんひころもそこはかとなくまきるゝ事侍ておもひ給ふる心のほとよりはこよなくをろかに御覽せらるゝ事のくるしう侍るなときこえ給宮はおくのかたにいとしのひておはしませとことくしからぬたひの御しつらひあさきやうなるおましのほとにて人の御けはひをのつからしむしいとやはらかにうちみしろきなとし給御そのをとなひさはかりなゝるときゝゐたまへり心も空におほえてあなたの御せうそこかよふ程すこしとをうへたゝるひまにれいの少将の君などさふらふ人々にものかたりなとし給てかうまいりきなれうけ給はる事のとし比といふはかりになりけるをこよなうものをふもてなさせ給へるうらめしきなむかゝるみすのまへにて人つての御せうそこなどのほのかにきこえつたふる事よまたこそならはねいかにふるめかしきさまに人々ほゝゑみ給らんとはしたなくなんよはひつもらすかるかなりしほとにほのすきたるかたにおもなれなましかはかういゝしうもおほえさらましさらにかはかりすくくしうおれてとしふる人はたくひあらしかしの給けにいとあなつりにくけなるさまし給つればされはよと中くなる御いらへきこえてむははつかしうなとつきしろひてかゝる御うれへきこしめししらぬやうなりと宮にきこゆれはみつからきこえ給はさめるかたはらいたさにかはりはへるへきをいとおそろしきまでものし給ふめりしをみあつかひ侍しほとにいとゝあるかなきかの心ちになりてなんえきこえぬとあれはこは宮の御せうそこかとゐなほりて心くるし

き御なやみをみにかふはかりなけきこえさせ侍もなにのゆへにかゝたしけな
けれどものおほししる御ありさまなどはれ／＼しきかたにもみたまつりな
をし給まてはたひらかにすくし給はむこそたか御ためにもたのもしきことには
はへらめとおしはかりきこえさするによりなむたゝあなたさまにおほしゆつり
てつもりはへりぬる心さしをもしろしめされぬはほいなき心ちなむときこえ給
けにと人々もきこゆ日いりかたになりゆくに空のけしきもあはれにきりわたり
て山のかけはをくらき心ちするにひくらしのなきしきりてかきほにおふるなて
しこのうちなひける色もおかしうみゆまへのせんさいの花ともは心にまかせて
みたれあひたるに水のをといとすゝしけにて山おろし心すこく松のひゝきこふ
かくきこえわたされなとしてふたの経よむときかはりてかねうちならすにたつ
こゑもゑかはるもひとつにあひていとたうとくきこゆところからよろつの事心
ほそうみなさるゝもあはれにものおもひつゝけらる出給はん心ちもなしりしも
かちするをとしてたらにいとたうとくよむなりいとくるしけにし給なりとて人
々もそなたにつとひておほかたもかゝるたひ所にあまたまいらさりけるにいと
ゝ人すくなにて宮はななめ給へりしめやかにておもふこともうち出つへきおり
かなとおもひる給へるにきりのたゝこのきのもとまでたちわたればまかてん
かたもみえすなり行はいかゝすへきとて

山さとのあはれをそふるゆふきりにたちいてん空もなき心ちしてときこえ

給へは

やまかつのまかきをこめてたつきりも心そらなる人はとゝめすほのかにき

こゆる御けはひになくさめつゝまことにかへるさわすれはてぬ中空なるわさか
ないへちはみえすきりのまかきはたちとまるへうもあらずやはせ給つきなき
人はかゝる事こそなとやすらひてしのひあまりぬるすちもほのめかしきこえ給
にとしころもむけにみしり給はぬにはあらねとしらぬかほにのみもてなし給へ
るをかくことにいてゝうらみきこえ給をわつらはしうていとゝ御いらへもなけ
れはいたうなけきつゝ心のうちに又かゝるおりありなんやとおもひめくらし給
なさけなうあはつけきものにはおもはれたてまつるともいかゝはせむおもひわ
たるさまをたにしらせたてまつらんとおもひて人をめせは御つかさのそうより
かうふりえたるむつまじき人そまいれるしのひやかにめしよせてこのりしにか
ならすいふへき事のあるをこしんなどにとまなけなめるたゝいまはうちやす
むらむこよひこのわたりにとまりてそやのしはてん程にかのゑたるかたにもの
せむこれかれさふらはせやすいしんなどのをのこともはくるすのゝさうちかゝ

らむまくさなとりかはせてこゝに人あまたこゑなせそかうやうのたひねはかるくしきやうに人もとりなすへしとの給あるやうあるへしと心えてうけたまはりてたちぬさてみちいとたくしければこのわたりにやとかり侍るおなしうはこのみすのもとにゆるされあらなむあさりのおるゝほとまてなとつれなくの給れいはかやうになかゝりてあされはみたるけしきもみえ給はぬをうたてもあるかなと宮おほせとことさらめきてかるらかにあなたにはひわたり給は人もさまあしき心地してたゝをとおほしますとかくきこえよりて御せうそきこえつたへにあさりいる人のかけにつきていり給ぬまたゆふ暮のきりにとちられてうちはくらくなりにたるほとなりあさましうてみかへりたるに宮はいとむくつけうなり給うて北のみさうしのとにゐさりいてさせ給をいとようたとりてひきとゝめたてまつりつ御身は入はて給へれと御そのすそのこりてさうしはあなたよりさすへき方なりければひきたてさして水のやうにわなゝきおはす人ゝもあきれていかにすへきことともえおもひえすこなたよりこそさすかねなどもあれいとわりなくてあらくしきはえひきなくなるへくはたものし給はねはいとあさましうをもたまへよらさりける御心のほとになむとなきぬはかりにきこゆれとかはかりにてさふらはむか人よりけにうとましうめさましうおほさるへきにやはかすならすとも御みゝなれぬるとし月もかさなりぬらむとていとのとやかにさまよくもてしつめて思事をきこえしらせ給きゝいれ給へくもあらすくやしうかくまてとおほすことのみやるかたなければの給はむことはたましておほえ給はすいと心うくわかくしき御さまかな人しれぬこゝろにあまりぬるすぎくしきつみはかりこそ侍らめこれよりなれすきたる事はさらに御心ゆるされては御覧せられしいかはかりちゝにくたけはへるおもひにたえぬそやさりとものをのつから御覧ししるふしも侍らんものをしひておほめかしうけうとうもてなさせ給めれはきこえせんかたなさにかゝはせむ心ちなくにくしとおほさるともかうなからくちぬへきうれへをさたかにきこえしらせ侍らんとはかりなりいひしらぬ御けしきのつらきものからいとかたしけなければとてあなかになさけふかうよいし給へりさうしをおさへ給へるはいと物はかなきかためなれとひきもあけすかはかりのけちめをとしひておほさるらむこそあはれなれとうちはらひてうたて心のまゝなるさまにもあらず人の御有さまのなつかしうあてになまめいたまへる事さはいへとことにみゆよとゝもにものをおもひ給けにややせくにあえかなる心地してうちとけ給へるまゝの御袖のあたりもなよひかにけちかうしみたるにほひなとりあつめてらうたけにやはらかなる

心ちし給へりかせいと心ほそうふけゆく夜のけしきむしのねもしかのなくねも
たきのをともひとつにみたれてえむあるほとなれはたゝありのあはつけ人たに
ねさめしぬへき空のけしきをかうしもさなから入方の月の山のはちかき程とゝ
めかたふものあはれなりなをかうおほししらぬ御ありさまこそかへりてはあさ
う御心のほとしらるれかうよつかぬまでしれゝしきうしろやすさなどもたく
ひあらしとおほえはへるをなに事にもかやすきほとの人こそかゝるをはしれ物
などうちらはひてつれなき心もつかふなれあまりこよなくおほしおとしたるに
えなむしつめはつましき心ちしはへる世中をむけにおほししらぬにしもあらし
をとよろつにきこえせめられ給ていかゝいふへきとわひしうおほしめくらす世
をしりたるかたの心やすきやうにおりゝほのめかすもめさましうけにたくひ
なきみのうさなりやとおほしつゝけ給にしぬへくおほえ給うてうきみつからの
つみをおもひしるとてもいとかうあさましきをいかやうにおもひなすへきにか
はあらむといとほのかにあはれけにないたまふて

われのみやうき世をしれるためしにてぬれそふ袖のなをくたすへきとの給
ともなきをわか心につゝけてしのひやかにうちすし給へるもかたはらいたく
かにいひつる事そとおほさるゝにけにあしうきこえつかしなとほゝゑみ給へる
けしきにて

大かたはわれぬれきぬをきせすともくちにし袖のなやはかくるゝひたふる
におほしなりねかしとて月あかきかたにいさなひきこゆるもあさましとおほす
心つようもてなし給へとはかなう引よせたてまつりてかはかりたくひなき心さ
しを御覽ししりて心やすうもてなしたまへ御ゆるしあらてはさらにゝといと
けさやかにきこえ給ふほどあけかたちかふなりにけり月くまなふすみわたりて
きりにもまきれすさしいりたりあさはかなるひさしの軒はほともなき心ちすれ
は月のかほにむかひたるやうなるあやしうはしたなくてまきはし給へるもて
なしなどいはむかたなくなめきたまへりこきみの御こともすこしきこえいて
ゝさまようのとやかなる物かたりをそきこえ給ふさすかになをかのすきにしか
たにおほしおとすをはうらめしけにうらみきこえ給御心の内にもかれはくらゐ
などもまたをよはさりけるほとなからたれゝも御ゆるしありけるにをのつか
らもてなされてみなれ給にしをそれたにいとめさましき心のなりにしさまゝし
てかうあるましきことによそにきくあたりたにあらすおほ殿などのきゝおも
ひ給はむ事よなへての世のそしりをはさらにもいはす院にもいかにきこしめし
おもほされんなどはなれぬこゝかしこの御心をおほしめくらすにいと口おしう

わかこゝろひとつにかうつようおもふとも人のものいひいかならん宮す所のし
り給はさらむもつみえかましうかくきゝたまひて心をさなくとおほしの給はむ
もわひしければあかさてたにいて給へとやらひきこえ給よりほかのことなしあ
さましやことありかほにわけはへらんあさつゆのおもはむところよなをさらは
おほししれよおかましきさまをみえたてまつりてかしこうすかしやりつとお
ほしはなれむこそそのきはゝ心もえおさめあふましうしらぬことゝけしからぬ
心つかひもならひはしむへう思給へらるれとていとしろめたく中くなれと
ゆくりかにあされたることのまことにならぬ御心ちなれはいとをしうわか御
みつからも心をとりやせむなとおほいてたか御ためにもあらはなるましき程の
きりにたちかくれていて給心ちそらなり

おきはらや軒はの露にそほちつゝやへたつきりをわけそゆくへきぬれころ
もはなをえほさせ給はしかうわりなふやらはせ給御心つかからこそはときこえ給
けにこの御名のたけからすもりぬへきを心のとはむにたにくちきよふこたへん
とおほせはいみしうもてはなれ給

わけゆかむ草はの露をかことにてなをぬれきぬをかけんとやおもふめつら
かなることかなとあはめ給へるさまいとおかしうはつかしけなりとしころ人に
たかへる心は世人になりてさまくになさけをみえ奉るなこりなくうちたゆめ
すきくしきやうなるかいとほしう心はつかしけなれはをろかならすおもひか
へしつゝかうあなかちにしたかひきこえてものをこかましくやとさまくにお
おもひみたれつゝいて給みちの露けさもいとゝころせしかやうのありきならひ
給はぬ心ちにおかしうも心つくしにもおほえつゝとのにおはせは女君のかゝる
ぬれをあやしととかめ給ぬへければ六条院のひむかしのおとゝにまうて給ひぬ
またあさきりもはれすましてかしこにはいかにとおほしやるれいならぬ御あり
きありけりと人ゝはさゝめくしはしうちやすみ給て御そぬきかへ給つねに夏冬
といときよらにしをき給へれはかうの御からひつよりとうてゝたてまつり給御
かゆなとまいりて御前にまいりたまふかしこに御ふみたてまつり給へれと御ら
むしもいれすにはかにあさましかりしありさまめさましうもはつかしうもおほ
すに心つきなくて宮す所のもりきゝ給はむこともいとはつかしう又かゝること
やかかけてしり給はさらむにたゝならぬふしにてもみつけ給ひ人の物いひかく
れなきよなれはをのつからきゝあはせてへたてけるとおほさむかいとくるしけ
れは人ゝありしまゝにきこえもらさなむうしとおほすともいかゝはせんとおほ
すおやこの御中ときこゆるなかにもつゆへたてすそおもひかはし給へるよその

人はもりきけともおやにかくすたくひこそはむかしのものかたりにもあめれとさはたおほされす人ゝはなにかはほのかにきゝ給てことしもありかほにとかくおほしみたれむまたきに心くるしなといひあはせていかならむとおもふとちこの御せうそのゆかしきをひきもあけさせ給はねは心もとなくてなをむけにきこえさせ給はさらむもおほつかなくわかゝしきやうにそはへらむなときこえてひろけたれはあやしうなにもなきさまにて人にかはかりにてもみゆるあはつけさのみつからのあやまちにおもひなせとおもひやりなかりしあさましさもなくさめかたくなむえみすとをいへとことのほかにてよりふさせ給ぬさるはにくけもなくいと心ふかふかいたまふて

たましいをつれなき袖にとゝめをきてわか心からまとはるゝかなほかなる

ものはとかむかしもたくひ有けりとをもたまへなすにもさらにゆくかたしらすのみなむなといとおほかめれと人はえまほにもみすれのけしきなるけさの御ふみにもあらさめれとなをえおもひはるけす人ゝは御けしきもいとおしきをなけかしうみたてまつりつゝいかなる御ことにかはあらむなにことにつけてもありかたふあはれなる御心さまはほとへぬれとかゝるかたにたのみきこえてはみをとりにやし給はむとおもふもあやうくなとむつましうさふらふかきりはをのかとちおもひみたる宮す所もかけてしり給はすものゝけにわつらひ給ふ人はをもしとみれとさはやし給ひまもありてなむものおほえ給日中の御かちはてゝあさりひとりゝとゝまりてなをたらによみ給よろしうおはしますよろこひて大日如来そらことし給はすはなとてかかくなにかしか心をいたしてつかふまつる御す法しるしなきやうはあらむあくりやうはしふねきやうなれとこふしやうにまとはれたるはかなものなりとこゑはかれていかり給いとひしりたちすくゝしきりしにてゆくりもなくそよやこの大将はいつよりこゝにはまいりかよひ給そとひ申給宮す所さる事もはへらす故大納言のいとよき中にてかたらひつけたまへる心たかへしとこのとしころさるへき事につけていとあやしくなむかたらひものし給ふもかくふりはへわつらふをとふらひにとてたちより給へりければかたしけなくきゝはへりしときこえ給いてあなかたはなにかしにかくさるへきにもあらずけさこやにまうのほりつるにかのにしをつまとよりいとうるはしきおとこのいて給へるをきりふかくてなにかしはえみわいたてまつらざりつるをこの法しはらなむ大将殿のいて給なりけりとよへも御車もかへしてとまり給にけるとくちゝ申つるけにいかうはしきかのみちてかしらいきまでありつればけにさなりけりとおもひあはせはへりぬるつねにいかうはしうものし給君な

りこの事いとせちにもあらぬ事なり人はいというそくにものし給なにかしらも
わらはにものし給うし時よりかのきみの御ための事はす法をなんこ大宮の、給
つれたりしかはいかうにさるへきこといまにうけ給はる所なれといとやくなし
ほむさいつよくものし給さる時にあへるそうるいにていとやむことなしわかき
みたちは七八人になり給ぬえみこのきみをしたまはした女人のあしき身をう
け長やのやみにまとふはた、かやうのつみによりなむさるいみしきむくいをも
うくるものなる人の御いかりいてきはななきほたしとなりなむもはらうけひ
かすとかしらふりてた、いひにいひはなてはいとあやしきことなりさらにさる
けしきにもみえ給はぬ人なりよろつ心ちのまとひにしかはうちやすみてたいめ
せむとてなむしはしたちとまり給へるとこ、なるこたちいひしをさやうにてと
まり給へるにやあらむおほかたいとまめやかにすくよかにものし給人をとおほ
めいたまひなから心のうちにさることもやありけむた、ならぬ御けしきはおり
くみゆれと人の御さまのいとかとくしうあなかに人のそしりあらむこと
ははふきすてうるはしたち給へるにたはやすく心ゆるされぬことはあらしとう
ちとけたるそかし人すくなにておはするけしきをみてはひ入もやし給へりけむ
とおほすりしたちぬるのちにこ少将の君をめしてかゝることなむき、つるいか
なりしことそなとかをのれにはさなんかなむとはきかせ給はさりけるさしも
あらしとおもひなからとの給へはいとおしけれと初よりありしやうをくはしう
きこゆけさの御ふみのけしき宮もほのかにの給はせつるやうなときこえとしこ
ろしのひわたり給ける心のうちをきこえしらせむとはかりにや侍けむありかた
うよういありてなむあかしもはて、いて給ぬるを人はいかにきこえ侍にかりし
とはおもひもよらてしのひて人のきこえけるとおもふものもの給はていとうく
くちおしとおほすになみたほろく、とこほれ給ぬみたてまつるもいとおし
うなに、ありのまゝにきこえつらむくるしき御心ちをいと、おほしみたるらむ
とくやしうおもひるたりさうしはさしてなむとよろつによろしきやうにきこえ
なせととてもかくてもさはかりになにのようもなくかるらかに人にみえ給け
むこそいといみしけれ内くのみ心きようおはすともかくまていひつるほうし
はらよからぬわらはへなどはまさにいひのこしてむや人はいかにいひあらかい
さもあらぬことゝいふへきにかあらむすへて心をさなきかきりしもこゝにさふ
らひてともえの給ひやらすいとくるしけなる御心ちにものをおほしおとろきた
れはいとくしおしけなるけたかうもてなしきこえむとおほいたるによつかはし
うかるくしきなのたちたまふへきををろかならすおほしなけかるかうすこし

ものおほゆるひまにわたらせ給へうきこえよそなたへまいりくへけれとうき
すへうもあらてなむみたてまつらてひさしうなりぬる心ちすやとなみたをうけ
ての給ふまいりてしかなんきこえさせ給とはかりきこゆわたり給はむとて御ひ
たひかみのぬれまろかれたるひきつくろひひとへの御そほころひたるきかへな
としたまでもとみにもえうこい給はすこの人々もいかにおもふらんまたえしり
給はてのちにいさゝかもきゝ給ことあらんにつれなくてありしよとおほしあは
せむもいみしうはつかしければ又ふし給ぬ心ちのいみしうなやましきかなやか
てなをらぬさまにもありなむいとめやすかりぬへくこそあしのけのゝほりたる
心ちすとおしくたさせ給ふものをいとくるしうさまゝにおほすにはけそあか
りける少将うへにこの御事ほのめかしきこえける人こそはへけれいかなりしこ
とそととはせ給つればありのまゝにきこえさせてみさうしのかためばかりをな
むすこしことそへてけさやかにきこえさせつるもしさやうにかすめきこえさせ
給はゝおなしさまにきこえさせ給へとまうすなけい給へるけしきはきこえ出す
されはよといとわひしくて物もの給はぬ御まくらよりしつくそおつるこのこと
にのみもあらず身のおもはすになりそめしよりいみしうものをのみおもはせた
てまつることゝいけるかひなくおもひつゝけ給てこの人はかうてもやまてとか
くいひかゝつらひいてむもわつらはしうきゝくるしかるへうよろつにおほすま
いていふかひなく人のことによりていかなるなをくたさましなどすこしおほし
なくさむるかたはあれとかはかりになりぬるたかき人のかくまでもすゝろに人
にみゆるやうはあらしかしとすくせうくおほしくしてゆふつかたそなほわたら
せ給へとあれは中のぬりこめのとあけあはせてわたり給へるくるしき御心ちに
もなのめならすかしこまりかしつききこえ給つねの御さほふあやまたすおきあ
かりたまうていとみたりかはしけにはへれはわたらせ給ふも心くるしうてなん
このふつかみか許みたてまつらさりけるほととし月の心ちするもかつはいと
はかなくなむのちかならずしもたいめのはへるへきにも侍らさめり又めぐりま
いるともかひやははへるへきおもへはたゝ時のまにへたゝりぬへき世中をあな
かちにならひはへりにけるもくやしきまてなんとなき給ふ宮も物のみかなし
うとりあつめおほさるればきこえ給こともなくてみたてまつり給ものつゝみを
いたうし給本上にきはゝしうの給ひさはやくへきにもあらねははつかしとの
みおほすにいとゝおしうていかなりしなともとひきこえ給はすおほとなふら
なといそきまいらせて御たいなとこなたにてまいらせ給ものきこしめさすとき
ゝ給てとかうてつからまかなひなをしなとし給へとふれ給へくもあらすたゝ御

心ちのよろしうみえ給そむねすこしあけ給ふかしこより又御ふみあり心しらぬ人しもとりいれて大将殿より少将の君にとて御つかひありといふそ又わひしきや少将御ふみはとりつ宮す所いかなる御ふみにかとさすかにとひ給ふ人しれすおほしよはる心もそひてしたにまちきこえ給けるにさもあらぬなめりとおもほすも心さはきしていてその御ふみなをきこえ給へあいなし人の御なをよさまにいひなをす人はかたきものなりそこに心きようおほすともしかもちゐるひとはすくなくこそあらめ心うつくしきやうにきこえかよひ給てなをありしまゝならむこそよからめあいなきあまえたるさまなるへしとてめしよするしけれとたてまつりつあさましき御心のほとをみたてまつりあらはいてこそ中／＼心やすくひたふる心もつき侍ぬへけれ

せくからにあさゝそみえんやま河のなかれてのなをつゝみはてすはとこと
はもおほかれとみもはて給はすこの御ふみもけさやかなるけしきにもあらてめ
さましけに心ちよかほにこよひつれなきをいといみしとおほすこかむの君の御
心さまのおもはすなりし時いとうしとおもひしかと大かたのもてなしは又なら
ふ人なかりしかはこなたにちからある心ちしてなくさめしたによには心もゆか
さりしをあないみしやおほとゝわたりにおもひのたまはむことゝ思ひし給
なをいかゝの給とけしきをたにみむと心ちのかきみたりくるゝやうにし給ふめ
をししほりてあやしきとりのあとのやうにかき給ふたのもしけなくなりにては
へるとふらひにわたり給へるおりにてそゝのかしきこゆれといはれ／＼しか
らぬさまにものし給めれはみたまへわつらひてなむ

をみなへししほるゝのへをいつことて一よはかりのやとをかりけむとたゝ
かきさしておしひねりていたし給てふし給ぬるまゝにいといたくるしかり給
ふ御ものゝけのためめけるにやと人ゝいひさはきれいのけむあるかきりいとさ
はかしうのゝしる宮をはなをわたらせ給ひねと人ゝきこゆれと御身のうきまゝ
にをくれきこえしとおほせはつとそひ給へり大将殿はこのひるつかた三条殿に
おはしにけるこよひたちかへりまて給はむにことしもありかほにまたきにきゝ
くるしかるへしなとねむし給ていと中／＼としころの心もとなさよりもちへに
ものおもひかさねてなけき給北の方はかゝる御ありきのけしきほのきゝて心や
ましときゝゐ給へるにしらぬやうにてきむたちもてあそひまきはしつゝわか
ひるのおましにふし給へりよひするほとにその御返もてまいるをかくれ
いにもあらぬとりのあとのやうなれはとみにもみとき給はて御となふらちかう
とりよせてみ給女君ものへたてたるやうなれといとゝくみつけ給うてはひより

て御うしろよりとりたまうつあさましようこはいかにし給うそあなけしからす六
条のひんかしのうへの御ふみなりけさ風おこりてなやましけにし給へるを院の
おまへにはへりていてつるほと又もまうてすなりぬれはいとおしさにいまのま
いかにときこえたりつるなりみ給へよけさうひたるふみのさまかさてもなを
く／＼の御さまやとし月にそへていたうあなつり給こそうれたけれおもはむ所
をむけにはち給はぬようちうめきておしみかほにもひこしろい給はねはさす
かにふともみてもたまへりとし月にそふるあなつらはしきは御心ならひなへか
めりとはかりかくうるはしたちたまへるには、かりてわかやかにおかしきさま
しての給へはうちわらひてそはともかくもあらむよのつねの事なりまたあらし
かしよろしうなりぬるをのこのかくまかふ方なくひとつところをまもらへても
のおちしたるとりのせうやうのもの、やうなるはいかに人わらふらんさるかた
くなしきものにまもられ給は御ためにもたけからすやあまたか中に猶きはまさ
りことなるけちめみえたるこそよそのおほえも心にく、わか心ちもなをふりか
たくおかしきこともあはれなるすちもたえさらめかくおきななにかしまもり
けんやうにおれまとひたれはいとそくちおしきいつこのはえかあらむとさすか
にこのふみのけしきなくをこつりと、むの心にてあさむき申給へはいとにほひ
やかにうちわらひてもの、はえく／＼しさつくりいて給ふほとふりぬる人くるし
やいといまめかしさもみならはすなりにける事なれはいとなむくるしきかねて
よりならはし給はてとかこち給もにく、もあらずにはかにとおほすはかりには
なに事かみゆらむいとうたである御心のくまかなよからす物きこえしらす人
そあるへきあやしうもとよりまろをはゆるさぬそかし猶かのみとりのそでのな
こりあなつらはしきにことつけてもてなしたてまつらむとおもふやうあるにや
いろく／＼き、にくき事ともほのめくめりあいなき人の御ためにもいとほしうな
との給へとついにあるへき事とおほせはことにあらかはす大夫のめのといとく
るしとき、てもものもきこえすとかくいひろひてこの御ふみはひきかくし給つ
れはせめてもあさりとらてつれなくおほとこのこもりぬれはむねはしりていかで
とりてしかなく宮す所の御ふみなめりなにごとありつらむとめもあはすおもひ
ふしたまへり女君のねたまへるによへのおましのしたなとにさりけなくてさく
り給へとなくしたまへらむ程もなければいと心やましくてあけぬれとどみ
にもおき給はす女君はきむたちにおとろかされてゐさりいて給にそわれもいま
おき給ふやうにてよろつにうか、ひ給へとえみつけ給はす女なはかくもとめむ
とも思給へらぬをそけにけさうなき御ふみなりけりと心にもいれねはきむたち

のあはてあそひあひてひゝなつくりひろひすゑてあそひ給ふふみよみてならひ
などさま／＼にいとあはたゝしちいさきちこはひかゝりひきしろへはとりしふ
みのこともおもひいて給はすおとこはこと事もおほえ給はすかしこにとくきこ
えんとおほすによへの御ふみのさまもえたしかにみすなりにしかはみぬさまな
らむもちらしてけるとおしはかり給へしなとおもひみたれ給ふたれも／＼御た
いまいりなとしてのとかなりぬるひるつかたおもひわつらひてよへの御ふみ
はなにことかありしあやしうみせ給はてけふもとふらひきこゆへしなやましう
て六条にもえまいるましければふみはおこかましうとりてけりとすさましうてそ
との給かいとさりけなければふみはおこかましうとりてけりとすさましうてそ
のことをはかけ給はす一夜の御山風にあやまり給へるなやましさなゝりとおか
しきやうにかこちきこえ給へかしときこえ給ふいてこのひか事なつねにの給そ
なにのおかしきやうかあるよひとになすらへ給うこそ中／＼はつかしけれこの
女はうたちもかつはあやしきまめさまをかくの給とほゝゑむらむものをとたは
ふれことにいひなしてその文よいつらとの給へととみにもひきいて給はぬほと
になをものかたりなときこえてしはしふし給へるほとにくれにけりひくらしの
こゑにおとろきて山のかけいかにきりふたかりぬらむあさましやけふこの御返
事をたにといとをしうてたゝしらすかほにすゝりおしすりていかなしてしに
かとりなさむとなかめおはするおましのおくのすこしあかりたるところを心み
にひきあげ給へればこれにさしはさみ給へるなりけりとうれしうもおこかまし
うもおほゆるにうちゑみてみ給ふにかう心くるしき事なむありけるむねつふれ
て一夜のことを心ありてきゝ給ふけるとおほすにいとおしう心くるしよへたに
いかにおもひあかしたまうけむけふもいまゝてふみをたにといはむかたなくお
ほゆいとくるしけにいふかひなくかきまきはし給へるさまにておほろけにお
もひあまりてやはかくかき給ふつらむつれなくてこよひのあけつらむといふへ
きかたのなければ女君そいとつらう心うきすゝろにかくあたえかくしてや
わかならはしそやとさま／＼に身もつらくすへてなきぬへき心ちし給やかてい
てたち給はむとするを心やすくたいめあらさらむものから人もかくの給いか
ならむかん日にもありけるをもしたまさかにおもひゆるしたまはゝあしからむ
なをよからむ事をこそとうるはしき心におほしてまつこの御返をきこえ給ふい
とめつらしき御ふみをかた／＼うれしうみたまふるにこの御とかめをなんいか
にきこしめしたることにか

秋のゝの草のしけみはわけしかとかりねのまくらむすひやはせしあきらめ

きこえさするもあやなければとよへのつみはひたやこもりにやとありみやにはいとおほきこえたまてみまやにあしとき御むまにうつしをきて一夜のたいふをそたてまつれ給よへより六条の院にさふらひてたゝいまなむまかてつるといへとていふへきやうさゝめきをしへ給ふかしこにはよへもつれなくみえ給し御けしきをしのひあへてのちのきこえをもつゝみあへすうらみきこえたまうしをその御返たにみえすけふのくれはてぬるをいかはかりの御心にかはともてはなれてあさましう心もくたけてよろしかりつる御心ち又いいたうなやみ給中くさうしみの御心の内はこのふしをことにうしとおほしおとろくへきことしなければたゝおほえぬ人にうちとけたりしありさまをみえしことはかりこそくちおしけれいとしもおほししまぬをかくいみしうおほいたるをあさましうはつかしうあきらめきこえ給かたなくてれいよりもものはちし給へるけしきみえ給をいと心くるしう物をのみおもほしそふへかりけるとみたてまつるもむねつとふたかりてかなしければいまさらにむつかしきことをはきこえしとおもへとなを御すくせとはいひなからおもはずにをさなくてひとのときをおひ給ふへき事をとりかへすへき事にはあらねといまよりはなをさる心したまへかすならぬ身なからもよろつにはくゝみきこえつるをいまはなに事をもおほししり世中のとさまかうさまのありさまをもおほしたとりぬへき程にみたてまつりをきつることゝそなたさまはうしろやすくこそみたてまつりつれなをいといはけてつよき御心をきてのなかりける事とおもひみたれ侍にいましはしのいのちもとゝめまほしうなむたゝ人たにすこしよろしくなりぬる女の人ふたりとみるためしは心うくあわつけきわさなるをましてかゝる御身にはさはかりおほるけにて人のちかつききこゆへきにもあらぬをおもひのほかにこゝろにもつかぬ御ありさまとしこころもみたてまつりなやみしかとさるへき御すくせにこそは院よりはしめたてまつりておほしなひきこのちゝおとゝにもゆるい給ふへき御けしきありしにをのれひとりしも心をたてゝもいかゝはとおもひより侍しことなれはすゑの世までものしき御ありさまをわか御あやまちならぬに大空をかこちてみたてまつりすくすをいとかう人のためわかためのよろつにきゝにくかりぬへきことこのいてきそひぬへきかきてもよその御なをはしらぬかほにてよのつねの御ありさまにたにあらはをのつからありへんにつけてもなくさむこともやとおもひなし侍るをこよなうなさけなき人の御心にもはへりけるかなとつふくとなき給ふいとわりなくおしこめての給ふをあらかひはるけむ事のはもなくてたゝうちなき給へるさまおほとかにらうたけなりうちまもりつゝあはれなに事かは人にを

とり給へるいかなる御すくせにてやすからずものをふかくおほすへきちきりふ
かゝりけむなどの給まゝにいみしうくるしうし給ふものゝけなともかゝるよは
めに所うるものなりければはかにきえ入てたゝひえにひえいり給ふりしもさ
はきたち給うてくわむなとたてのゝしり給ふかきちかひにていまは命をかきり
ける山こもりをかくまておほろけならすいてたちてたむこほちてかへりいらむ
ことのめいほくなく仏もつらくおほえ給へき事を心をおこしていのり申給ふ宮
のなきまとひ給こといとことほりなりかしかくさはく程に大将殿より御ふみと
りいたるほのかにきゝ給てこよひもおはすましきなめりとうちきゝ給ふ心う
くよのためしにもひかれ給へきなめりなにゝわれさへさる事のはをのこしけむ
とさまゝおほしいつるにやかてたえいりたまひぬあえなくいみしといへはを
ろかなりむかしよりもゝけには時ゝわつらひ給ふかきりとみゆるおりゝ
もあればれいのことゝりいたるなめりとてかちまいりさはけといまはのさま
しるかりけり宮はをくれしとおほしいりてつとそひふし給へり人ゝまいりてい
まはいふかひなしとかうおほすともかきりあるみちはかへりおはすへき事に
もあらずしたひきこえたまふともいかてか御心にはかなふへきとさらなること
はりをきこえていとゆゝしうなき御ためにもつみふかきわさなりいまはさらせ
給へとひきうこかいたてまつれとすくみたるやうにてものおほえ給はす法
のたんこほちてほろゝといつるにさるへきかきりかたへこそたちとまれいま
はかきりのさまいとかなしう心ほそし所ゝの御とふらひいつのまにかとみゆ
大将殿もかきりなくきゝおとろき給うてまつきこえ給へり六条の院よりもちし
の大殿よりもすへていとしけうきこえ給ふ山のみかともきこしめしていとあは
れに御ふみかい給へり宮はこの御せうそこにぞ御くしもたけ給ひころをもくな
やみ給ときゝわたりつれとれいもあつしうのみきゝはへりつるならひにうちた
ゆみてなむかひなきことをはさる物にておもひなけい給ふ覽ありさまをしはか
るなむあはれに心くるしきなへてのよのことほりにおほしなくさめ給へとあり
めもみえたまはねと御返きこえたまふつねにさこそあらめとの給けることとて
けふやかておさめたてまつるとて御をひの山とのかみにてありけるそよろつに
あつかひきこえけるからをたにしはしみたてまつらむとて宮はおしみきこえ給
けれとさてもかひあるへきならねはみないそきたちてゆゝしけなる程にそ大将
おはしたるけふよりのち日ついてあしかりけりなと人きゝにはの給いていとも
かなしうあはれに宮のおほしなく覽ことをおしはかりきこえ給うてかくしも
いそきわたり給へきことならずと人ゝいさめきこゆれとしゐておはしましぬほ

とさへとをくていり給ふほいと心すこしゆゝしけにひきへたてめくらしたる
きしきの方はかくしてこの西おもてにいたてまつる山とのかみいてきてなく
くかしこまりきこゆつまとのすのこにおしかゝり給うて女はうよひいてさせ
給ふにあるかきりこゝろもおさまらすものおほえぬ程なりかくわたり給へるに
そいさゝかなくさめて少将の君はまいる物もえの給ひやらすなみたもろにおは
せぬこゝろつよさなれと所のさま人のけはひなとおほしやるもいみしうてつ
ねなきよの有さまの人のうへならぬもいとかなしきなりけりやゝためらひてよ
ろしうをこたり給さまにうけたまはりしかはおもたまへたゆみたりし程にゆめ
もさむるほとはへなるをいとあさましうなむときこえ給へりおほしたりしさま
これにおほくは御心もみたれにしそかしとおほすにさるへきとはいひなからも
いとつらき人の御ちきりなれはいらへをたにしたまはすいかにきこえさせ給と
かきこえはへるへきいとかるらかならぬ御さまにてかくふりはへいそきわたら
せ給へる御心はへをおほしわかぬやうならむもあまりに侍ぬへしとくちくき
こゆれはたゝおしはかりてわれはいふへきこともおほえすとてふし給へるもこ
とほりにてたゝいまはなき人とことならぬ御ありさまにてなむわたらせ給へる
よしはきこえさせ侍りぬときこゆこの人ゝもむせかへるさまなれはきこえやる
へきかたもなきをいますこしみつからもおもひのとめ又しつまり給なむにまい
りこむいかにしてかくにはかにとその御ありさまなむゆかしきとの給へはまほ
にはあらねとかのおもほしなけきしありさまをかたはしつゝきこえてかこちき
こえさするさまになむなり侍ぬへきけふはいとゝみたりかはしき心ちともいま
とひにきこえさせたかふることともゝはへりなむさらはかくおほしまとへる御
心ちもかきりあることにてすこししつもらせ給ひなむほとにきこえさせうけ給
らんとてわれにもあらぬさまなれはのたまひいつることもくちふたかりてけに
こそやみにまとへる心ちすれなをきこえなくさめ給ていさゝかの御返もあらは
なむなどの給ひをきてたちわつらひ給もかるくしうさすかに人さはかしけれ
はかへり給ぬこよひしもあらしとおもひつる事とものしたゝめいとほとなくき
はくしきをいとあえなしとおほいてちかきみさうの人ゝめしおほせてさるへ
き事ともつかふまつるへくをきてさためて給ぬことのはかなれはそくや
うなりつる事ともいかめしう人かすなともそひてなむ山とのかみもありかたき
殿の御心をきてなとよろこひかしこまりきこゆなこりたになくあさましき事と
宮はふしまろひ給へとかひなしおやときこゆともいとかくはならはすましきも
のなりけりみたてまつる人ゝもこの御事を又ゆゝしうなけききこゆ山とのかみ

のこりのことゝもしたゝめてかく心ほそくではえおはしまさしいと御心のひま
あらしなときこゆれとなをみねのけふりをたにけちかくておもひいてきこえむ
とこの山さとにすみはてなむとおほいたり御いみにこまれるそうはひんかしお
もてそなたのわた殿しもやなどにはかなきへたてしつゝかすかにゐたりにしの
ひさしをやつして宮はおはしますあけるゝもおほしわかねと月ころへければ
九月になりぬ山おろしいとはけしうこのはかくろへなくなりてよろつの事い
といみしき程なれは大かたのそらにもよほされてひるまもなくおほしなけきい
のちさへ心になはすといとはしういみしうおほすさふらふ人ゝもよろつにも
のかなしうおもひまとへり大将殿は日々にとふらひきこえたまふさひしけなる
ねん仏のそうなどなくさむはかりよろつのものをつかはしとふらはせ給ひ宮の
御前にはあはれに心ふかき事のはをつくしてうらみきこえかつはつきもせぬ御
とふらひをきこえ給へととりてたに御らんせすゝすろにあさましきことをよわ
れる御心ちにうたかひなくおほしきみてきえうせ給にしことをおほしいつるに
のちのよの御つみにさえやなるらむとむねにみつ心ちしてこの人の御ことをた
にかけてきゝ給ふはいとゝつらく心うきなみたのもよほしにおほさる人ゝもき
こえわつらひぬひとくたりの御返をたにもなきをしはしは心まとひし給へるな
とおほしけるにあまりにほとへぬれはかなしきこともかきあるをなとかかく
あまりみしり給はすはあるへきいふかひなくわかゝしきやうにとうらめしう
事ことのすちに花やてうやとかけはこそあらめわか心にあはれとおもひものな
けかしきかたさまの事をいかにととふ人はむつましうあはれにこそおほゆれ大
宮のうせ給へりしをいとかなしと思しにちしのおとゝのさしもおもひ給へらす
ことはりの世のわかれにおほやけゝしきさほうはかりのことをけうし給しに
つらく心つきなかりしに六条院の中ゝねんころにのちの御事をいとなみ給
うしかわかゝたさまといふなかにもうれしうみたてまつりしそのおりにこゑも
むのかみをはとりわきておもひつきにしそかし人からのいたうしつまりてもの
をいたうおもひとゝめたりし心にあはれもまさりて人よりふかゝりしかなつか
しうおほえしなとつれゝとものをのみおほしつゝけてあかしくらし給ふ女君
なをこの御中のけしきをいかなるにかありけむ宮す所とこそ文かよはしもこま
やかにし給めりしかなどおもひえかたくてゆふ暮の空をなかめいりてふし給へ
る所にわか君してたてまつれ給へるはかなきかみのはしに

あはれをもいかにしりてかなくさめむあるやこひしきなきやかなしきおほ

つかなきこそ心うけれとあれはほゝゑみてさきゝもかくおもひよりての給ふ

にけなのなきかよそへやおほすいと、しくことなしひに

いつれとかわきてなかめんきえかへる露も草はのうへとみぬよをおほかた

にこそかなしけれとかいたまへりなをかくへたて給へること、つゆのあはれを
はさしをきてた、ならすなけきつ、おはすなほかくおほつかなくおほしわひて
又わたり給へり御いみなとすくしてのとやかにとおほししつめけれとさまでも
えしのひ給はすいまはこの御なきなのなにかはあなかちにもつ、まむた、よつ
きてつゐのおもひかなふへきにこそはとおほしたはかりにければ北の方の御思
ひやりをあなかちにもあらかひきこえ給はすさうしみはつようおほしはなると
もかのひとよはかりの御うらみふみをとらへところにかこちてえしもす、きは
て給はしとたのもしかりけり九月十よ日の山のけしきはふかくみしらぬ人たに
た、にやはおほゆる山風にたへぬ木々のこすゑもみねのくすはもこ、ろあはた
、しうあらそひちるまきれにたうときと経のこゑかすかに念仏などのこゑはか
りして人のけはひいとすくなうこからしのふきはらひたるに鹿はた、まかきの
もとにた、すみつ、山田のひたにもおとろかすいろこきいねともの中にましり
てうちなくもうれへかほなりたきのこゑはいと、物思ふ人をおとろかしかほに
み、かしかましようと、ろきひ、くくさむらのむしのみそより所なけになきよは
りてかれたるくさのしたよりりんたうのわれひとりのみ心なかうはひいて、露
けくみゆるなどみなれいのころのことなれとおりに所からにやいとたへかた
きほとものかなしきなりれいのつまとのもとにたちよりたまでやかてなかも
いたしてたち給へりなつかしき程のなをしに色こまやかなる御そのうちめいと
けうらにすきてかけよはりたる夕日のさすかに心に心もなうさしたるにまは
ゆけにわさとなくあふきをさしかくし給へるてつき女こそかうはあらまほしけ
れそれたにえあらぬをとみたてまつるものおもひのなくさめにしつへくゑまし
きかほのにほひにて少将の君をとりわきてめしやすすのこのほどもなければと
くに人やそひゐたらんとうしろめたくてえこまやかにもかたらひ給はすなをち
かくてなはなち給そかく山ふかくわけ入心さはへたてのこるへくやはきりも
いとふかしやとてわさともみいれぬさまに山のかたをなかれてなをく、とせち
にの給へはにひいろのき丁をすたれのつまよりすこしおしいて、すそをひきそ
はめつ、ゐたり山とのかみのいもうとなれははなれたてまつらぬうちにをさな
くよりおほしたてたまうければきぬの色いところてつるはみのきぬひとかさね
こうちき、たりかくつきせぬ御事はさるものにてきこえなむ方なき御心のつら
さをおもひそふるに心たましるもあくかれはて、みる人ことにとかめられはへ

れはいまはさらにしのふへきかたなしといとおほくうらみつゝけ給かのいまは
の御ふみのさまもの給ひいてゝいみしうなき給ふこの人もましていみしうなき
入つゝその夜の御かへりさへみえはへらすなりにしをいまはかきりの御心にや
かておほし入てくらうなりにしほどの空のけしきに御心ちまとひにけるをさる
よはめにれいの御ものゝけのひきいれたてまつるとなむみ給へしすきにし御事
にもほとゝ御心まとひぬへかりしおりゝおほくはへりしを宮のおなしさま
にしつみたまうしをこしらへきこえんの御心つよさになむやうゝ物おほえた
まうしこの御なけきをおまへにはたゝわれかの御けしきにてあきれてくらさ
せ給うしなとめかたけにうちなけきつゝはかゝしうもあらずきこゆそよや
そもあまりにおほめかしういふかひなき御こゝろなりいまはかたしけなくとも
たれをかはよるへにおもひきこえ給はん御山すみもとふかきみねに世中をお
ほしたえたるくものなかなめれはきこえかよひ給はむことかたしいとかく心う
き御けしききこえしらせたまへよろつのことさるへきにこそよにありへしとお
ほすともしたかはぬよなりまつはかゝる御わかれの御心になはゝあるへき事
かはなとよろつにおほくの給へときこゆへき事もなくてうちなけきつゝあたり
しかのいといたなくをわれをとらめやとて

里とをみをのゝしのはらわけてきてわれもしかこそおしまねとの給
へは

ふちころも露けき秋の山ひとはしかのなくねにねをそそへつるよからねと

おりからにしのひやかなるこわつかひなとをよろしうきゝなし給へり御せうそ
ことかうきこえ給へといまはかくあさましき夢のよをすこしもおもひさますお
りあらはなんたえぬ御とふらひもきこえやるへきとのみすくよかにいはせ給い
みしういふかひなき御心なりけりとなけきつゝ返給みちすからもあはれなる空
をなかめて十三日の月のいとはなやかにさしいてぬれはをくらの山もたとるま
しうおはするに一条の宮はみちなりけりいとゝうちあはれてひつしさるのかた
のくつれたるをみいるれははるゝとおろしこめて人かけもみえす月のみやり
水のおもてをあらはにすみましたるに大納言こゝにてあそひなとしたまうしお
りゝをおもひいて給

みし人のかけすみはてぬ池水にひとりやともる秋の夜の月とひとりこちつ

ゝ殿におはしても月をみつゝ心はそらにあくかれ給へりさもみくるしうあらさ
りし御くせかなとこたちもにくみあへりうへはまめやかに心うくあくかれたち
ぬる御心なめりもとよりさるかたにならひ給へる六条院の人々をとすればめ

てきたためにひきいてつゝ心よからすあいたちなき物におもひ給へるわりなしやわれもむかしよりしかならひなましかは人めもなれて中くすこしてまし世のためしにしつへき御心はへとおやはらからよりはしめたてまつりめやすきあへ物にし給へるをありくゝてはすゑにはちかましきことやあらむなといったうなけいたまへりよあけかたちかくかたみにうちいて給ふことなくてそむきくになけきあかしてあさきりのはれまもまたすれいのふみをそいそきかきたまふいと心つきなしとおほせとありしやうにもはひ給はすいとこまやかにかきてうちをきてうそふき給ふしのひたまへともりてきゝつけらる

いつとかはおとろかすへきあけぬよのゆめさめてとかいひしひとことうへ

よりおつるとやかい給つらむおしつゝみてなこりもいかてよからむなとくちすさひ給へり人めして給ひつ御返事をたにみつけてしかななをいかなることそとけしきまほしうおほすひたけてそもてまいれるむらさきのこまやかなるかみすくよかにてこ少将それいのきこえたるたゝおなしさまにかひなきよしをかきていとおしきにかのありつる御ふみにてならひすさひたまへるをぬすみたるとて中にひきやりて入たるめにはみ給うてけりとおほすはかりのうれしさそいと人わろかりけるそこはかとなくかき給へるをみつゝけ給へれば

あさゆふになくねをたつるをの山はたえぬなみたやとなしの滝とやとり

なすへからむふることなど物おもはしけにかきみたり給へる御てなともみところあり人のうへなとにてかやうのすき心おもひいらるゝはもとかしううつし心ならぬことにみきゝしかとみの事にてはけにいとたえかたかるへきわさなりけりあやしやなどかうしもおもふへき心いられそとおもひかへし給へとえしもかなはす六条院にもきこしめしていとおとなしうよろつをおもひしつめ人のそしり所なくめやすくてすくし給をおもたゝしうわかいにしへすこしあされはみあたなるなをとりたまうしおもておこしにうれしうおほしわたるをいとおしういつかたにもこゝろくるしきことのあるへき事さしはなれたるなからひにてたにあらておとゝなどいかにおもひ給はむさはかりの事たとらぬにはあらしくせといふ物のかれわひぬる事なりともかくもくちいるへきことならすとおほす女のためのみにこそいつかたにもいとおしけれとあいなくきこしめしなくむらさきのうへにもきしかたゆくさきのことおほしいてつゝかうやうのためしをきくにつけてもなからむのちうしろめたうおもひきこゆるさまをの給へは御かほうちあかめて心うくさまでをくらかし給ふへきにやとおほしたり女はかりみをもてなすさまもところせうあはれなるへきものはなし物のあはれおりおかし

き事をもみしらぬさまにひきいりしつみなとすれはなに、つけてかよにふるはえくしさもつねなき世のつれくをもなくさむへきそはおほかた物の心をしらすいふかひなきものにならひたらむもおほしたてけむおやもいとくちおしかるへきものにはあらずやこゝろにのみこめて無言太子とかこほうしはらのかなしきことにするむかしのたとひのやうにあしきことよきことをおもひしりなからうつもれなむもいふかひなしわか心なからもよき程にはいかてたもつへきそとおほしめくらすもいまはたゝ女一宮の御ためなり大将の君まいり給へるついでありておもたまへらむけしきもゆかしければ宮す所のいみはてぬらんなきのふけふとおもふ程にみとせよりあなたのことになるよにこそあれあはれにあちきなしやゆふへのつゆかゝるほどのむさほりよいかてかこのかみそりてよろつそむきすてんとおもふをさものとやかなるやうにてもすすかないとわろきわさなりやとのたまふまことにおしけなき人たにこそはへめれなときこえて宮す所の四十九日のわさなとやまとのかみなにかしのあそむひとりあつかひはへるいとあはれなるわさなりやはかくしきよすかなき人はいけるよのかきりにてかゝるよのはてこそかなしう侍れるときこえ給ふ院よりもとふらはせ給ふらんかのみこいかにおもひなけき給ふらんはやうきゝしよりはこのちかきところことにふれてきゝみるにこのかういこそくちおしからすめやすき人のうちなりけれおほかたのよにつけておしきわさなりやさてもありぬへき人のかううせゆくよ院もいみしうおとろきおほしたりけりかのみこゝそはこゝに物し給入道の宮よりさしつきにはらうたうしたまひけれ人さまもよくおはすへしとの給御こゝろはいかゝものし給らん宮す所は事もなかりし人のけはひ心はせになむしたしうちとけ給はさりしかとはかなき事のついでにをのつから人のよういはあらはなるものになむはへるときこえ給て宮の御こともかけすいとつれなしかはかりのすくよけこゝろにおもひそめてんこといさめむにかなはしもちゐさらむものからわれさかしにこといへむもあいなしとおほしてやみぬかくて御法しによろつとりもちてせさせ給ふことのきこえをのつからかくれなければおほい殿などにもきゝ給てさやはあるへきなどをむなかたのこゝろあさきやうにおほしなすそわりなきやかむかしの御心あれはきむたちまてとふらひ給す行などとのよりもいかめしうせさせ給ふこれかれもさまゝおとらすし給へれは時の人のかやうのわさにをとらすなむありける宮はかくてすみはてなんとおほしたつことありけれと院に人のもらしそうしければいとあるましきことなりけにあまとさまかうさまにみをもてなし給へきことにもあらねとうしろ

みなき人なむ中／＼さるさまにてあるましきをたちつみえかましき時このよ
のちのよ中そらにもとかしきとかおふわさなるこゝにかく世をすてたるに三宮
のおなしことをやつし給へるすへなきやうに人のおもひいふもすてたる身に
は思ひなやむへきにはあらねとかならずさしもやうのことゝあらそひ給はむも
うたであるへしよのうきにつけていとふは中／＼人わろきわさなり心とおもひ
しつめ心すましてこそともかうもとたひ／＼きこえ給ふけりこのうきたる御な
をそきこしめしたるへきさやうのこのおもはすなるにつけてうし給へるとい
はれ給はんことをおほすなりけりさりとて又あらはれてものし給はむもあは
／＼しう心つきなき事とおほしなからはつかしとおほさむもおしきをなに
かはわれさへきゝあつかはむとおほしてなむこのすちはかけてもきこえ給は
さりける大将もとかくいひなしつるもいまはあひなしかの御心にゆるし給はむ
ことはかたけなめり宮す所の心しりなりけりと人にはしらせんいかゝはせむな
き人にすこしあさきとかはおもはせていつありそめしことそともなくまきは
してんさらかへりてけさうたちなみたをつくしかゝつらはむもいとうゑ／＼し
かるへしとおもひえたまうて一条にわたりたまふへき日その日はかりとさため
てやまどのかみめしてあるへきさほうのたまひ宮のうちはらひしつらひさこそ
いへとも女どちは草しけうすみなし給へりしをみかきたるやうにしつらひなし
て御心つかひなどあるへきさほうめてたうかへしろ御ひやうふ御木丁おましな
とまておほしよりつゝ山とのかみにの給てかのいへにそいそきつかうまつらせ
たまふその日我おはしゐて御くるまこそせんたとたてまつれ給宮はさらにわたら
しとおほしの給ふを人ゝいみしうきこえ山とのかみもさらにうけ給はらし心ほ
そくかなしき御ありさまをみたてまつりなけきこのほどの宮つかへはたふるに
したかひてつかうまつりぬいまはくにもはへりまかりくたりぬへし宮の
内のこともみ給へゆつるへき人もはへらすいたい／＼しういかにとみ給ふ
るをかくよろつにおほしいとなむをけにこのかたにとりておも給ふるにはかな
らすしもおはしますましき御ありさまなれとさこそはいにしへも御心になは
ぬためしおほくはへれひとゝころやはよのときをもおはせ給へきいとをさな
くおはしますことなりたけうおほすとも女の御心ひとつにわか御身をともし
たゝめかへりみ給へきやうかあらむなを人のあかめかしつき給へらんにたすけ
られてこそふかき御心のかしこき御をきてもそれにかゝるへきものなりきみた
ちのきこえしらせたてまつり給はぬなりかつはさるましきことをも御心ともに
つかうまつりそめ給うてといひつゝけて左近少将をせむあつまりてきこえこし

らふるにいとわりなくあさやかなる御そとも人々のたてまつりかへさするもわれにもあらずなをいとひたふるにそきすてまほしうおほさるゝ御くしをかきいてゝみ給へは六尺はかりにてすこしほりたれと人はかたはにもみたてまつらすみつからの御心にはいみしのおとろへや人にみゆへきありさまにもあらずさまゝに心うき身とおほしつゝけて又ふし給ぬ時たかひぬよもふけぬへしとみなさはくしくれいとこゝろあはたゝしうふきまかひよろつにものかなしければ

のほりにしみねのけふりにたちましりおもはぬかたになひかすもかな心ひ

とつにはつよくおほせとそのころは御はさみなとやうのものはみなとりかくして人々のまもりきこえければかくもてさはかさらむにてたになにのおしけある身にてかおかましうわかゝしきやうにはひきしのはむ人きゝもうたておほすましかへきわさをとおほせはそのほいのこともしたまはす人々はみないそきたちてをのゝくしてはこれからひつよろつのものをはかゝしからぬふくろやうの物なれとみなさきたてゝはこひたれはひとりとまり給へうもあらでなくゝ御くるまにのり給もかたはらのみまもられたまでこちわたりたまうし時御こゝちのくるしきにも御くしかきなてつくろひおろしたてまつり給しをおほしいつるにめもきりていみし御はかしにそへて経はこそそへたるか御かたはらはなれねは

恋しさのなくさめかたきかたみにてなみたにくもる玉のはこがなくろきも

またしあへさせ給はすかのてならし給へりしらてんのはこなりけりす経にせさせ給しをかたみにとゝめたまへるなりけりうらしまのこか心ちなんおはしましつきたれは殿のうちかなしけもなく人けおほくてあらぬさまなり御くるまよせており給ふをさらにふるさとゝおほえすうとましようたておほさるれはとみにもおり給はすいとあやしうわかゝしき御さまかなと人々もみたてまつりわつらふ殿はひんかしのたいのみなみをもてをわか御方をかりにしつらひてすみつきかほにおはす三条殿には人々にはかにあさましようもなり給ひぬるかないつのほとにありし事そとおとろきけりなよらかにをかしはめることをこのましからすおほす人はかくゆくりかなる事そうちまじりたまうけるされとしへにけることををとなくけしきももらさてすくし給うけるなりとのみおもひなしてかく女の御心ゆるいたまはぬと思よる人もなしとてもかうても宮の御ためにそいとおしけなる御まうけなとさまかはりて物のはしめゆゝしけなれどものまいらせなどみなしつまりぬるにわたりたまて少将の君をいみしうせめ給ふ御心さしま

ことになかうおほされはけふあすをすくしてきこえさせ給へ中／＼たちかへりて物おほししつみてなき人のやうにてなむふさせ給ひぬるこしらへきこゆるをもつらしとのみおほされたれはなにことも身のためこそはへれいとわつらはしうきこえさせにくゝなむといふいとあやしうをしはかりきこえさせしにはたかひていはけなく心えかたき御心にこそありけれとおもひよれるさま人の御ためもわかためにも世のときあるまじうの給つゝくれはいてやたゝいまは又いたつら人にみなしたてまつるへきにやとあはたゝしきみたり心ちによろつおもたまへわかれすあか君とかくをしたちてひたふるなる御心なつかはせ給そとてをするいとまたしらぬよかなにくゝめさましと人よりけにおほしおとすらんみこそいみしけれいかて人にもことはらせむといはむかたもなしとおほしての給へはさすかにいとおしうもありまたしらぬはけによつかぬ御こゝろかまへのけにこそはとことほりはけにいつかたにかはよる人はへらんとすらむとすこしうちわらひぬかく心こはけれといまはせかれ給へきならねはやかてこの人をひきたてゝおしはかりにいり給ふ宮はいと心うくなさけなくあはつけき人の心なりけりとねたくつられはわか／＼しきやうにはいひさはくともとおほしてぬりこめにおましひとつかせたまてうちよりさしておほどのこもりにけりこれもいつまてにかはかはかりにみたれたちにたる人の心ともはいとかなしうくちおしうおほすおとこきみはめさましうつらしと思ひきこえ給へとかはかりにてはなにもてはなるゝことかはとのとかにおほしてよろつにおもひあかし給ふ山とりの心ちそし給うけるからうしてあけかたになりぬかくてのみことゝいへはひたおもてなへければいて給ふとてたゝいさゝかのひまをたにといみしうきこえ給へといとつれなし

うらみわひむねあきかたき冬のよにまたさしまさる関のいはかときこえん方なき御心なりけりとなく／＼いて給ふ六条院にそおはしてやすらひ給ふひんかしのうへ一条の宮わたしたてまつり給へることゝかの大殿わたりなとにきこゆるいかなる御ことにかはといとおほとかにの給ふみき丁そへたれとそはよりほのかにはなをみえたてまつり給ふさやうにもなをひとのいひなしつへきことに侍りこ宮す所はいとこゝろつようあるまじきさまにいひはなちたまふしかとかきりのさまに御心ちのよはりけるに又ゆつるへき人のなきやかなしかりけむなからむのちのうしろみにとやうなることはへりしかはもとよりの心さしも侍りしことにてかくおもたまへなりぬるをさま／＼にいかに人あつかひはへらむかしさしもあるましきをもあやしう人こそ物いひさかなき物にあれとうちは

らひつゝ、かのさうしみなむなをよにへしとふかうおもひたちてあまになりなむとおもひむすほゝれ給ふめれはなにかはこなたかなたにきゝにくゝもはへゝきをさやうにけむきはなれてもまたかのゆいこむはたかへしと思給へてたゝかくいひあつかひはへるなり院のわたらせ給へらんにもことのついてはへらはかうやうにまねひきこえさせ給へありくゝて心つきなき心つかうとおほしの給はむをはゝかりはへりつれとけにかやうのすちにこそ人のいさめをもみつからの心にもしたかはぬやうに侍りけれとしのひやかにきこえ給ふ人のいつはりにやとおもひはへりつるをまことにさるやうある御けしきにこそはみなよのつねのことなれと三条のひめ君のおほさむことこそいとおしけれのとやかにならひたまうときこえ給へはらうたけにものたまはせなすひめ君かないとおにしうはへるさかなものをとてなとてかそれをもをろかにはもてなしはへらんかしこけれと御ありさまともにてもおしはからせ給へなたらかならむのみこそ人はついのことにははめれさかなくことかましきもしはしはなまむつかしうわつらはしきやうにはゝからるゝことあれとそれにしもしたかひはつましきわさなれはことのみたれてきぬるのちわれも人もにくけにあきたしやなをみなみのおとゝの御こゝろもちるこそさまくゝにありかたうさてはこの御かたの御心などこそはめてたきものにはみたてまつりはてはへりぬれなとほめきこえ給へはわらひ給てものゝためにひきいて給ほとに身の人わろきおほえこそあらはれぬへうさておかしき事は院のみつからの御くせをは人しらぬやうにいさゝかあたくゝしき御心つかひをはいしとおほいていましめ申たまうしりう事にもきこえ給めるこそさかしたつ人のをのかうへしらぬやうにおほえはへれとの給へはさなむつねにこのみちをしもいましめおほせらるゝさるはかしこき御をしへならてもいとよくおさめてはへる心をとてけにおかしとおもひ給へり御まへにまゐり給へれはかの事はきこしめしたれとなにかはきゝかほにもとおほいてたゝうちまもり給へるにいとめてたくきよらにこのころこそねひまさり給へる御さかりなめれさるさまのすきことをし給ふとも人のもとくへきさまもしたまはすおに神もつみゆるしつへくあさやかに物きよけにわかうさかりにほひをちらし給へりものおもひしらぬわか人の程にはたおはせすかたほなる所なうねひとゝのほり給へることほりそかし女にてなとかめてさらむかゝみをもてもなとかをこらさらむとわか御こなからもおほす日たけてとのにはわたり給へりいり給よりわかきみたちすきくゝうつくしけにてまつはれあそひ給ふ女君は丁のうち

にふし給へりいり給へれとめもみあはせたまはすつらきにこそはあめれとみ給

もことはりなれとははかりかほにももてなし給はす御そをひきやり給へれはい
つこととおはしつるそまろははやうしにきつねにおにとの給へはおなくはな
りはてなむとてとの給ふ御こゝろこそおによりけにもおはすれさまはにくけも
なければえうとみはつましとなに心もなういひなし給もこゝろやましうてめて
たきさまになまめいたまへ覽あたりにありふへきみにもあらねはいつちもく
うせなむとするをかくたになおほしいてそあいなくとしころをへけるたにくや
しきものをとておきあかり給へるさまはいみしうあひ行つきてにほひやかにう
ちあかみ給へるかほいとおかしけなりかく心をさなけにはらたちなし給へれは
にやめなれてこのおにこそいまはおそろしくもあらずなりにたれかうくしき
けをそへはやとたはふれにいひなし給へとなにこといふそおひらかにしたま
ひね丸もしなむみれはにくしきけはあい行なしみすて、しなむはうしろめたし
との給ふにいとおかしきさまのみまされはこまやかにわらひてちかくてこそみ
たまはさらめよそにはなにかき、給はさらむさてもちきりふか、なるせをしら
せむの御心なゝりにはかにうちつゝくへかなるよみちのいそきはさこそはちき
りきこえしかといとつれなくいひてなにくれとなくさめこしらへきこえなくさ
め給へはいとわかやかに心うつくしうらうたき心はたおはする人なれはなをさ
りことゝはみ給なからをのつからなこみつゝものし給をいとあはれとおほすも
のから心はそらにてかれもいとわか心をたてゝつようものくしき人のけはひ
にはみえ給はねともしなをほいならぬことにてあまになともおもひなり給ひな
はおこかましうもあへいかなと思ふにしはしはとたえをくましうあはたゝしき
心ちして暮行まゝにけふも御かへりたになきよとおほして心にかゝりつゝいみ
しうなかめをし給きのふけふつゆもまいらさりけるものいさゝかまいりなとし
ておはすむかしより御ために心さしのをろかならさりしさまおとゝのつらくも
てなしたまうしに世中のしれかましきなをとりしかとたへかたきをねんしてこ
ゝかしこすゝみけしきはみしあたりをあまたきゝすくしゝありさまは女たにさ
しもあらしとなむ人もゝときしいまおもふにもいかてかはさありけむとわか心
なからいにしへたにをまかりけりとおもひしらるゝをいまはかくにくみ給とも
おほしすつましき人ゝいとところせきまてかすそふめれは御心ひとつにもては
なれ給へくもあらず又よしみたまへやいのちこそさためなき世なれとてうちな
きたまふこともあり女もむかしのことをおもひいて給ふにあはれにもありかた
かりし御中のさすかにちきりふかゝりけるかなとおもひいて給ふなよひたる御
そともぬい給うて心ことなるをとりかさねてたきしめ給ひめてたうつくろひけ

さうして給ふをほかけにみいたしてしのひかたく涙のいてくれはぬきとめ
給へるひとへのそてをひきよせ給て

なる、身をうらむるよりは松しまのあまのころもにたちやかへましなをう

つし人にてはえすくすましかりけりとひとりことにの給をたちとまりてさも心
うき御こゝろかな

まつしまのあまのぬれきぬなれぬとてぬきかへつてふなをたゝめやはうち

いそきていとなをくしやかしこにはなをさしこもり給へるを人々かくてのみ
やはわか／＼しうけしからぬきこえもはへりぬへきをれいの御ありさまにてあ
るへきことをこそきこえ給はめなとよろつにきこえければさもあることゝはお
ほしなからいまよりのちのよそのきこえをもわか御心のすきにしかたをもこゝ
ろつきなくうらめしかりける人のゆかりとおほししりてそのよもたいめしたま
はすたはふれにくゝめつらかなりときこえつくし給ふ人もいとおしとみたてま
つるいさゝかも人心ちするおりあらむにわすれ給はすともかうもきこえんこ
の御ふくのほとはひとすちにおもひみたるゝことなくてたにすぐさむとなんふ
かくおほしの給はするをかくいとあやにくにしらぬ人なくなりぬめるをなをい
みしうつらき物にきこえ給ふときこゆおもふ心は又ことさまにうしろやすきも
のをおもはすなりける世かなとうちなけきてれのやうにておはしまさはもの
こしなどにてもおもふことはかりきこえて御こゝろやふるへきにもあらずあま
たのとし月をもすくしつへくなむなとつきもせすきこえ給へとなをかゝるみた
れにそへてわりなき御こゝろなむいみしうつらき人のきゝおもはむこともよろ
つになのめならさりける身のうさをはさるものにてことさらにこゝろうき御心
かまへなれと又いひかへしうらみ給つゝはるかにのみもてなし給へりさりとて
かくのみやは人のきゝもらさむこともことはりとはしたなうこゝの人めもおほ
え給へは内々の御こゝろつかひは此のたまふさまにかなひてもしはしはなさけ
はまむよつかぬありさまのいとうたてあり又かゝりとてひきたえまいらすは人
の御ないかゝはいとおしかるへきひとへに物をおほしてをさなけなるこそいと
おしけれなどこの人をせめ給へはけにとおもひみたてまつるもいまは心くるし
うかたしけなうおほゆるさまなれは人かよはし給ふぬりこめのきたのくちより
いれたてまつりてけりいみしうあさましうつらしとさふらふ人をもけにかゝる
よの人の心なれはこれよりまさるめをもみせつへかりけりとたのもしき人もな
くなりはて給ぬる御身を返ゝかなしうおほすおとこはよろつにおほしするへき
ことはりをきこえしらせことのはおほうあはれにもおかしうもきこえつくし給

へとつらく心つきなしとのみおほいたりいかういはむかたなきものにおもほされける身のほとはたくひなうはつかしければあるましき心のつきそめけむも心ちなくやしうおほえはへれととりかへすものならぬ中になにのたけき御なにかはあらむいふかひなくおほしよはれおもふにかなはぬときみをなくするためしもはへなるをたゝかゝる心さしをふかきふちになすらへたまてすてつるみとおほしなせときこえ給ふひとへの御そを御くしこめひきくゝみてたけき事とはねをなき給ふさまの心ふかくいとおしければいとうたていかなれはいとかうおほす覧いみしう思ふ人もかはかりになりぬれはをのつからゆるふけしきもあるをいはきよりけになひきかたきはちきりとをうてにくしなとおもふやうあなるをさやおほす覧とおもひよるにあまりなればこゝろうく三条の君のおもひたまふらんこといにしへもなに心もなうあひおもひかはしたりしよのこととしころいまはどうらなきさまにうちたのみとけ給へるさまを思ひいつるもわか心もていとあちきなうおもひつゝけらるればあなかちにもこしらへきこえ給はすなけきあかし給うつかうのみしれかましうていていらむもあやしければけふはとまりて心のとかにおはすかくさへひたふるなるをあさましと宮はおほいていよ／＼うとき御けしきのまさるをおこかましき御こゝろかなとかつはつらきものゝあはれなりぬりこめもことにこまかなるものおほうもあらてかうの御からひつみつしなとはかりあるはこなたかなたにかきよせてけちかうしつらひてそおはしけるうちはくらき心ちすれとあさひさしいてたるけはひもりきたるにうつもれたる御そひきやりいとうたてみたれたる御くしかきやりなとしてほのみたてまつり給ふいとあてに女しうなまめいたるけはひしたまへりおとこの御さまはうるはしたち給へるときよりもうちとけてものし給ふはかきりもなうきけなりこ君のことなることなかりしたにこゝろのかきりおもひあかり御かたちまほにおはせすことのおりにおもへりしけしきをおほしいつれはましてかういみしうをとろへにたるありさまをしはしにてもみしのひなんやとおもふもいみしうはつかしうとさまかうさまにおもひめくらしつゝわか御こゝろをこしらへ給ふたゝかたはらいたうこゝもかしこもひとのきゝおほさむ事のつみさらむかたなきにおりさへいと心うければなくさめかたきなりけり御てうつ御かゆなとれいのおましの方にまいり色ことなる御しつらひもいま／＼しきやうなればひんかしおもては屏風をたてゝもやのきはにかうそめのみき丁なこと／＼しきやうにみえぬ物ちんのかいなんとやうのをたてゝ心はへありてしつらひたり山とのかみのしわさなりけり人々もあさやかならぬ色の山吹かいねりこきき

ぬあをにひなとをきかへさせうすいろのもあをくちはなとをとかくまきはして御たいはまいるをむなところにてしとけなくよろつのことならひたる宮のうちにありさま心とゝめてわつかなるしも人をもいひとゝのへこの人ひとりのみあつかひをこなふかくおほえぬやむことなきまらうのおはするときゝてもとつとめさりけるけいしなとうちつけにまいりてまところなどいふかたにさふらひていとなみけりかくせめてもみなれかほにつくり給ふほと三条殿かきりなめりとさしもやはとこそかつはたのみつれまめ人の心かはるはなこりなくなむときゝしはまことなりけりとよをこゝろみつる心ちしていかさまにしてこのなめけさをみしとおほしければ大殿へかたゝかへむとてわたり給にけるを女御のさとおはする程なとにたいめしたまうてすこしものおもひはるけところにおほされてれいのやうにもいそきわたりたまはす大將殿もきゝ給てされはよいときふにものし給ふ本上なりこのおとゝもはたおとなゝしうのとめたる所さすかになくいとひきゝりにはなやいたまへるひとゝにてめさましきかしなとひかゝしきこともしいて給うつへきとおとろかれたまうて三条殿にわたり給へれば君たちもかたへはとまり給へればひめ君たちさてはいとをさなきとをそゐておはしにけるみつてよろこひむつれあるはうへをこひたてまつりてうれへなき給ふをこゝろくるしとおほすせうそこたひゝきこえてむかへにたてまつれ給へと御返たになしくかたくなしうかるゝしものやとものしうおほえ給へとおとゝのみきゝ給はむところもあれはくらしてみつからまいり給へりしん殿になむおはするとてれいのわたり給かたはこたちのみさふらふわかきみたちそめのとにそひておはしけるいまさらにわかゝしの御ましらひやかゝる人をこゝかしこにおとしをき給てなとしむ殿の御ましらひはふさはしからぬ御こゝろのすちとはとしこみしりたれとさるへきにやむかしよりこゝろにはなれかたうおもひきこえていまはかくたゝしき人のかすゝあはれなるをかたみにみすつへきにやはとたのみきこえけるはかなきひとふしにかうはもてなし給へくやといみしうあはめうらみまうし給へはなにこともいまはとみあきたまひにける身なれはいまはたなほるへきにもあらぬをなにかはとてあやしき人ゝはおほしすてすはうれしうこそはあらめときこえたまへりなたらかの御いらへやいひもていけはたかなかおしきとてしゐてわたり給へともなくてそのよはひとりふし給へりあやしう中そらなるころかなとおもひつゝ君たちをまへにふせ給てかしこに又いかにおほしみたるらんさまおもひやりきこえやすからぬ心つくしなれはいかなる人かうやうなることをかしうおほゆらんなとものこりし

ぬへうおほえ給あけぬれは人のみきかむわか／＼しきをかきりとなたまひは
てはさて心みむかしこなる人ゝもらうたけにこひきこゆめりしをえりのこし給
へるやうあらむとはみなからおもひすてかたきをとにかくもてなしはへりな
むとおとしきこえ給へはすか／＼しき御心にてこの君たちをさへやしらぬとこ
ろにゐてわたし給はんとあやふしひめ君をいさたまへかしみたてまつりにかく
まいりくることもはしたなければつねにもまいりこしかしこにもひと／＼のら
うたきをおなし所にてたにみたてまつらるときこえ給ふまたいといはけなくお
かしけにておはすいとあはれとみたてまつり給ては、君の御をしへになかなひ
たまうそいと心うくおもひとるかたなき心あるはいとあしきわさなりといひし
らせたてまつり給ふおと、かゝることをき、給て人わらはれるやうにおほし
なけくしはしはさてもみ給はてをのつから思所ものせらるらんものを女のかく
ひきゝりなるもかへりてはかるくおほゆるわさなりよしかくいひそめつとなら
はなにかはおれてふとしもかへり給ふをのつから人のけしき心はへはみえなん
とのたまはせてこの宮にくら人の少将の君を御つかひにてたてまつり給ふ
ちきりあれや君をこゝろにとゝめをきてあはれとおもふうらめしときくな

をえおほしはなたしとある御ふみを少将もおはしてたゝいりに入給ふみなみ
おもてのすのこにわらうたさしいてゝ人ゝものきこえにくし宮はましてわひし
とおほすこの君はなかにいとかたちよくめやすきさまにてのとやかにみまはし
ていにしへをおもひいてたるけしきなりまいりなれにたる心ちしてうゑ／＼し
からぬにさも御覽しゆるさすやあらむなとはかりそかすめ給ふ御返いときこえ
にくゝてわれはさらにえかくましとのたまへは御心さしもへたてわか／＼しき
やうにせしかきはたきこえさすへきにやはとあつまりてきこえさすればまつう
ちなきてこうへおはせましかはいかに心つきなしとおほしなからもつみをかく
いたまはましとおもひいて給ふになみたのみつらきにさきたつ心ちしてかきや
り給はす

なにゆへか世にかすならぬみひとつをうしとおもひかなしともきくとの
みおほしけるまゝにかきもとちめ給はぬやうにてをしつゝみていたしたまうつ
少将は人／＼ものかたりして時々さふらふにかゝるみすのまへはたつきなき心
ちし侍るをいまよりはよすかある心ちしてつねにまいるへしなけなともゆる
されぬへきとしころのしるしあらはれ侍る心ちなむしはへるなどけしきはみを
きていて給ひぬいとゝしく心よからぬ御けしきあくかれまとひたまふほど大殿
の君はひころふるまゝにおほしなけく事しけし内しのすけかゝることをきくに

われをよとゝもにゆるさぬものにのたまふなるにかくあなつりにくきこともい
てきにけるをとおもひて文などは時ゝたてまつればきこえたり

かすならはみにしられまし世のうさを人のためにもぬらす袖かななまけや

けしとはみたまへものゝあはれなるほとつれゝにかれもいとたゝにはお
ほえしとおほすかた心そつきにける

人のよのうきをあはれとみしかともみにかへんとはおもはさりしをとのみ

あるをおほしけるまゝとあはれにみるこのむかし御中たえのほどにはこの内し
のみこそ人しれぬものにおもひとめ給へりしかことあらためてのちはいとたま
さかにつれなくなりまさり給うつゝさすかにきんたちはあまたになりにけりこ
の御はらには太郎君三郎君五郎君六郎君なかの君四の君五の君とおはす内しは
大きみ三の君六の君二郎君四郎君とおはしけるすへて十二人か中にかたほな
るなくいとおかしけにとりゝにおひいてたまける内侍はらのきんたちしもな
んかたちおかしう心はせかとありてみなすくれたりける三の君二郎君はひんか
しのおとゝにそとりわきてかしつきたてまつり給ふ院もみなれたまうていとら
うたくし給ふこの御中らひのこといひやるかたなくとそ